

芸術文化事業の今後の展開について

神戸市は平成 16 年の 12 月に神戸文化創生都市宣言というのを理念として、文化芸術を持つ創造性を生かした人づくり、あるいはまちづくりを目指していく文化創生都市づくりを進めているということになっております。しかしながら、現在行われている芸術文化を現状のまま続けていくことで、果たしてですね、この崇高な理念を達成できるのかということについてお伺いをしていきたいと思っております。

まず市民参画推進局は、市民文化振興財団と連携してですね、さまざまな事業を行っております。来年度開催されることになっておりますビエンナーレやら神戸まつり、あるいは大丸やトアロード周辺でやるまちのアートステージ、神戸国際フルーツコンクールに代表されるような、神戸文化ホールでの演奏会など、中央区を中心として行われているものがほとんどだと、こういうふうになっております。中央区は他の区と比べてですね、ふだんから人が特に集まるんです。そういうところで、芸術文化を生かしたまちづくりをつくるんだということをおっしゃっていただけますけれども、地域の活性化を目指すということも 1 つの目的ではないのかと、これを申し上げたいと思う。もっと神戸市全体でのですね、展開を図っていくべきだというふうになっておるんですが、どう考えていらっしゃるのかお伺いしたいと思います。

答弁(永井市民参画推進局長)

芸術文化をもっと地域を重視してやれということですが、おっしゃるとおりそういうふうに我々の方も力を入れていきたいというふうなことで、各区がやってる各区の祭りだけではなくてですね、具体的に東灘でしたらアートマンスとか、あるいは灘ですと文化軸、特に今ミュージアムロードという構想でいろんなアイデアも出て、これはすばらしいものになると思っておりますし、長田でも今鉄人とか、三国志とか、そういうふうなものも出てきておりますし、今現在、これも新聞紙上で NPO 法人のダンスボックス——全国的に有名な団体ですけど、このダンスボックスが大阪の話もけて、神戸の長田に拠点を置いてくれてます。大阪から神戸、そういうて。それで何をやっておられるかという、野田高校とかですね、そういったところと色々なイベントをやったりですね、あるいは代表の方が地元の高校生によるダンス作品の合同製作をしたり、ヴィンテージという市民劇団を——これ公募で集めて劇団つくっておられたりですね、まさに長田を中心にして芸術活動をされよるわけですけども、先生、地元のこういう活動もですねご理解いただきたいと思っておりますし、アートステージということで神戸まつりでも大丸の神戸店とか NHK 神戸放送局だけでやってたのを、新開地のアートステージということで、積極的に応援をしていきたいと思っておりますし、芸術文化活動助成という制度がございますので、この活動助成を活用いただいてですね、各地域にばらまいて、そういう市民のいわゆる文化の活性化をしてまちづくりに役立てていきたいというふうに思っております。ご理解いただきたいと思っております。

神戸まつりの活性化について

それからもう 1 つ、多くの市民に芸術文化に触れてもらうために、常に魅力ある事業を推進していかなければならない。現状は毎年同じような事業が繰り返されておってですね、マンネリに陥っているのではないのでしょうか。特に神戸まつり、これはいつも同じ内容で、市民参加型なのか集客観光を目的としているのか、このあたりははっきりしてほしい。明確ではないと、こういうふうになっております。平成 17 年か 18 年ごろにね、1 万人のアンケートをしました。そのうちの 8 割がですね、この神戸まつりについてはね、参加もしないし見に行くこともしなかったと、8 割の人はそう答えておりますね。6 割の人が魅力的な祭りだとは思わないという返事があります。こういうふうな答えをいただいて、その結果を踏まえてですね、その後何か改良、魅力をアップのために

どんな改良をしたんだと、こういうふう思うのですが、実際は改良もほとんどしていないんじゃないかなと思っております。

昔、私らが子供のころはですね、この神戸まつりというのは非常に盛り上がったんです。まちからまちへと歌の文句にあるように、まちじゅういろんなまちがですね、それぞれ競い合って祭りをつくり上げていったんです。そういうふうなことがあったもんですから、今の祭りとは随分違う盛り上がりがある。だから今の祭りと比べてね、盛り上げていく上においてどういうふうにしたらいいと考えておるのかということをお伺いしたいと思いません。

答弁（岸田市民参画推進局文化交流部長）

神戸まつりにつきましては、昭和46年にみなとの祭と神戸カーニバルを発展的に統合して誕生いたしました比較的新しい祭りでございます。他の伝統的な祭りとは異なり、いわゆる神様というのが存在せずですね、市民がつくり参加し、楽しむ祭りとして毎年5月の第3土曜、日曜日を中心に開催をしております。震災後の一時期につきましては、京阪神の三都夏祭りというようなことで、7月に開催されたということもございまして、今はもとの5月に戻ってございます。

現在の神戸まつりでございますけれども、やはり市民参加ということを基本にしながらも、見る側からも魅力的な祭りとなる必要があるというふうにご考えてございます。北山委員からもご指摘をいただきましたが、平成17年度の1万人アンケート、これは平成18年の5月ごろに発表があったということでございまして、大変厳しい結果でございます。私も読ませていただきましたけれども、これは厳しいなというような実感でございます。当時は神戸まつり検討委員会というものを設置をいたしまして、神戸まつりの魅力づけということについてご検討いただいております。その折にもですね、やはり見る側からも魅力的な祭りとすることが必要だというふうなことが言われておまして、パレード等への参加につきまして選考制というものを導入してはどうかというふうな提案をいただいております。それを受けまして、平成20年の祭りからそれまでは希望者がすべて参加をできるというようなことでございましたけれども、やはり選考制ということで参加団体数を限定してございます。

昨年の神戸まつりの来場者アンケートなどを見ますと、内容に満足している方が約96%、今後の神戸まつりを現行のまま実施してほしいという方は約70%という結果になってございまして、またどの団体も飽きさせないような努力が見受けられるというような肯定的な意見もいただいております。選考制の導入により演技の質が向上いたしまして、一定の成果が上がっているのではないかとこのふうにも考えてございます。

また、17年当時の神戸まつりにつきましては、メインフェスティバルが土曜日でございます。各区の祭りが同一の日ではなく、分散するような形で実施をいたしました。神戸のまち全体の盛り上がりということをお考えますと、やはり集中して開催する方がいいのではないかとこのことで、平成20年の神戸まつりからやはり5月の第3日曜日にメインフェスティバル、その前日に各区の祭りを開催するというような形に戻して実施をしております。

各区の方でおきまして、例えば長田区の祭りでは昨年から今話題の若松公園の鉄人広場を舞台にして、長田区の祭りを開催するというようなことでありますとか、北区におきましては、ことしの6月に北神の区民センターが開設をいたしますので、その時期にあわせて区民センターを使って祭りを開催したいというようなことも予定をされてございます。それから東灘区、灘区なんかを見ますと、震災後に入居した住民が大変多いというようなところでございますので、神戸まつりを新鮮な目でとらえておられまして、大勢の子供たちでにぎわっておるというようなことも、実際私も行ってですね確認をした次第でございます。

これからどうしていくかということでございまして、ことしの祭りではまず幅広い年齢層に人気がある東京ディズニーリゾートをスペシャルゲストとして……

新たな取り組みとしてキッズアベニューというものをやらせていただきたいと思います。また、ビエンナーレ

のパフォーマーを集めたパフォーマンス広場というものを開催したいと思います。

今後とも神戸まつりは市民参加型という原点を守りつつ、魅力的なものになるよう、例えば神戸ビーフや神戸スイーツといったような、神戸の誇るブランドを神戸まつりにあわせて楽しめるといように、祭りにプラスアルファするというので、まち全体で魅力を満喫できるようなものについて検討したいと思います。

交通安全対策について

神戸市で平成 22 年度の人身事故件数は 9,167 件なんです。死亡者数は 35 人、負傷者数は 1 万 956 人となっておりますね、すべて前年を下回っておりまして、死亡者のうち 65 歳以上の高齢者の割合は 48.6%と非常に高くなっておると。これは前年度と比べても 10 ポイントの増であります。また、特に私はきょうは申し上げたいと思っておりますのは、自転車の事故についてね——自転車事故というのが非常に大きくそういう交通事故の中で割合を占めてきております。平成 14 年以降、ずっとですね 1,500 件を超えておって、減少傾向というのはこれだけみんなが努力したって見られておりません。むしろふえて、年々増加しておる。こうした状況を考えるときに、自転車が特に高齢者に与える危険性、こういうものをどういうふうにとらえていってですね、どういうふうにもこの安全対策をしようとしておるのかということをお伺いしたいと思っております。

答弁（長谷川市民参画推進局参画推進部長）

交通事故死亡者のうち高齢者の占める割合は非常に多くなっておりまして、22 年度には過半数を超えました。神戸市でも昨年は 48.6%の方が高齢者というふうなことで、非常に大幅に増加しております。内容を見ましても歩行中が全国で 50%、神戸市でも歩行中の事故が 40%というふうなことになってございまして、我々神戸市の交通安全市民運動をやっておるんですけども、自転車マナーの向上と高齢者の交通安全、こういった 2 つの柱をですね重点項目として取り組んでおるわけでございます。

自転車マナーのマナーアップにつきましては、神戸市に交通安全指導員という職員がおるんですけども、警察の皆さんと連携しながら各学校で学童に対する体験型の学習をしたりですね、あと自転車運転のルールですとか、そういった普及啓発に努めております。そういった中でちゃんとヘルメットをかぶってくださいよとか、ヘルメットをかぶる人も正しくかぶってくださいよと、そういった啓発も行ってございます。

一方で高齢者の皆さんの事故対策はといいますと、春、夏、秋、そして年末、それぞれの交通安全運動の時期にですね、高齢者の交通安全というふうなことを大きな目標に掲げまして地域単位で通行者ですとかドライバーを対象にキャンペーンを行ってございます。こういったキャンペーンを通じての啓発、それから交通安全指導員が給食サービスなどの場に出向きまして、高齢者の皆さんが集まる機会をとらまえてですね、交通安全の講座をしましたり、あるいはまた高齢者みずからが地域の推進役になっていただくということで、交通安全シルバーリーダーの養成塾といったものをやっております。こういったことを今まで進めてまいりました。

先ほど先生のほうが自転車事故が多いというお話ございましたが、やはり 15 歳以下の事故が非常に多うございます。昨年、自転車事故 473 件あったわけでございますが、そのうち 130 件ぐらいが 15 歳以下の子供の事故です。考えてみるに、恐らく小学生の高学年から中学生ぐらいの事故が非常に多いんじゃないかなというふうに思います。そういったことから、やはり今後は学校中心にそういった交通安全、特に自転車のマナーそういったものを働きかけていきたいというふうに考えます。なかなか神戸市だけではできませんので、警察それから学校とも協力しながら取り組んでまいりたいというふうに思いますし、高齢者に対する啓発につきましても先ほど交通安全教室なりシルバーリーダーというふうなことを申し上げましたけども、そういった施策を充実させながら引き続き頑張っていきたいと考えてございます。